

福祉サービスの第三者評価を受審しました

自立支援局（旧更生訓練所）

平成22年の2月から3月にかけて、自立支援局（旧更生訓練所）では、より質の高いサービスの提供を目指すために、現在提供しているサービスの状況を外部から評価していただく取組みとして、福祉サービスの第三者評価を受審いたしました。

評価を依頼した機関は、中立性が担保され、信頼できる機関である必要があることから、埼玉県より評価機関の認証を受けている機関としたところです。

評価の内容としては、

- ①職員による自己評価
- ②利用者による評価（聞き取りまたはアンケート）
- ③調査員の訪問調査（施設見学、関係書類確認）

の3点であり、特に利用者さんによる評価が実施できたことは、今後のサービス提供に重要な指摘をいただくこととなったと考えております。

また、評価機関やスケジュール等は以下のとおりです。

1. 評価機関

NPO法人福祉経営ネットワーク

2. 評価対象となる福祉サービス

障害者支援施設として実施する、各訓練等給付事業（自立訓練（機能及び生活）、就労移行支援、就労移行支援（養成））及び施設入所支援

3. 評価方法及び評価実施スケジュール

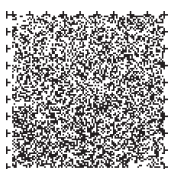
月 日	内 容
H22年1月6日	評価機関との事前打合せ
2月3日	評価機関調査者からの職員説明会 職員自己評価開始
2月4日	利用者評価（聞き取り及びアンケートへの回答）
8日	利用者評価（聞き取り及びアンケートへの回答）
10日	職員自己評価締切
3月3日	訪問調査（養成施設）
15日	訪問調査（自立、就労、施設入所）

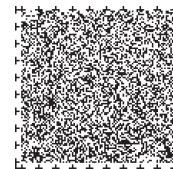
今回の第三者評価により指摘された点については、自立支援局のこれからの運営やサービス提供の参考として十分反映させていただき所存です。

評価機関からいただいた報告書については、センターホームページの「自立支援局」

（<http://www.rehab.go.jp/TrainingCenter/japanese/index.html>）の中に掲載しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

今後とも自立支援局へのご支援のほどよろしくお願いいたします。





病院紹介シリーズ②④ 「放射線部門」

病院本館から新館の外来診療室待合室に進み、内科診療室横の渡り廊下を過ぎたところに画像診断棟があります。画像診断棟は、センター中庭西側に位置し他の部門とは異なり、独立した建物が1999年に完成してから11年の歳月が経ちましたが、待合室は一面ガラス張りになっており、四季を通じて今も患者さまには「きれいですね」「眺めがいいですね」などの言葉を頂きます。また、待合室・受付・撮影室のパネルについても好評を頂いています。

私たちの放射線業務は、国家資格の「診療放射線技師法」に基づき、画像診断棟に設置されているMRI装置・CT装置・XTV装置・一般X線装置・ポータブル装置・手術室Cアーム装置の業務があります。業務は、医師又は歯科医師の指示の下に放射線（X線）を人体に対して照射を行い画像作成し、情報提供しています。よって、放射線技師は、医師又は歯科医師の指示（検査依頼：照射録）がなければ業務ができないことになっています。

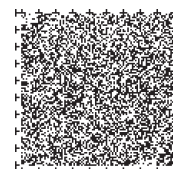
センターでは、4月に組織再編が行われました。以前の組織では病院長／診療部／研究検査科の中に臨床検部門と放射線部門が位置づけられていまし

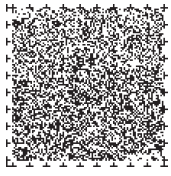
た。再編では、病院長／第二診療部／研究検査科／放射線部門となりました。

現在、開設当初設置された装置を継続して使用していますが、全ての撮影室は他の医療施設と比較しても広いスペースを設けており、車椅子患者さまには広さだけではなく検査業務の機能性において、今も高い評価を頂いています。そして、放射線部門の理念を下に基本方針を位置づけ、より良い画像情報・権利の尊重と安心できるサービス・技術の向上と先端技術などの提供や新しいリハビリテーション技術開発に画像情報も一翼を担えるように努めています。

○放射線部門 理念：「思いやり」

学問的背景に裏付けされた科学や技術、そして社会的に認知されたものを導入し、「思いやり」の具現化を実行するように努めます。また、学問的な技術や科学は一つ考え方に集約されるものではないと考えます。なぜなら、時代とともに技術や科学は進歩し変化すると考えます。この技術や科学の進歩と変化を放射線部門は常に取り入れるように努めます。





認知障害者を支援する 携帯電話アプリケーション

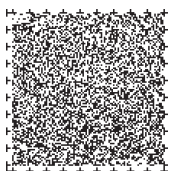
研究所 障害工学研究部 研究員 中山 剛

1. はじめに

研究所障害工学研究部では平成14年度から高次脳機能障害など認知機能に障害のある人のための支援機器の研究を行っています。独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構国立職業リハビリテーションセンターおよび明電ソフトウェア株式会社とともに、三者で共同研究を実施しており、その成果はPDA (Personal Digital Assistant、携帯情報端末) 用ソフトウェアとして市販化されています¹⁾。開発したPDAソフトウェアの有効活用例も報告されていますが^{2,4)}、その一方でPDAだけではなく携帯電話でも利用したいという要望が多く寄せられました。以上を背景に、高次脳機能障害者など認知機能に障害のある人を支援する携帯電話アプリケーションを開発しました。

2. 開発した支援アプリの概要

手順支援機能、スケジュール機能、アラーム機能の3つがメインとなる機能です。更にデータ編集できる機能もあります。図1が支援アプリを立ち上げた際の携帯電話の画面の例です。そのうち手順支援機能が本支援アプリの最大の特色です。高次脳機能障害者などの認知機能に障害のある人の中には、記憶障害、注意障害、遂行機能障害などが原因となって、作業の手順をなかなか覚えられなかったり、すぐに忘れてしまったり、作業の手順を飛ばしてしまったり、作業の最中に混乱してしまったりする人がいます。そのような認知機能に障害のある人に対して、支援アプリが手順を1ステップずつ表示することで作業の遂行を支援する機能が手順支援機能です。手順表示の際、認知機能に障害のある人に対して分かりやすいように、文字、メモ、写真、音声、動画などで表示することができます。また、操作がなるべく簡単になるように、決定ボタン（十字キ



ーの真ん中のボタン) を押すだけで次の手順ステップに進むようになっていきます。支援アプリの最大の特徴はこの手順を携帯電話で編集ができるという点です。コピー機の操作の手順例を図2に示します。また、アラーム機能のオプション機能として、動作完了報告メール送信機能があります。アラーム機能で設定した時刻に支援アプリの利用者（認知機能に障害のある人）が支援アプリの手順支援機能を完了すると、登録したメールアドレス（ご家族などを想定）へ動作完了の報告メールが自動送信される機能です。

なお、現時点ではNTTドコモ社の携帯電話のみに対応したアプリとなっています。すなわち、KDDI社 (au) やソフトバンクモバイル社などの携帯電話には対応していません。データの保存にSDカードを利用していますのでSDカードに対応していない携帯電話では利用できません。また、いわゆるスマートフォンのタイプの携帯電話にも対応していません。NTTドコモ社の903iシリーズあるいは704iシリーズ以降のスタンダードタイプの携帯電話の広い範囲で対応しています。

3. おわりに

支援アプリの研究開発を更に推進し改良を行うため、認知機能に障害のある方に利用して頂いて多くのご意見を頂くため、無料でダウンロードできるホームページを開設しました（※注1）。平成22年6月現在、障害工学研究部のホームページから支援アプリのダウンロードサイトへ移動できるように準備しています（※注2）。

本支援アプリの研究開発にあたり高次脳機能障害など認知機能に障害のある当事者やご家族、関係者から数多くのご意見やアドバイスを頂戴しました。ご協力を頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。なお、本研究の一部は財団法人テクノエイド協会の福祉用

具研究開発助成事業の助成を受けて行われました。

※注1：支援アプリをダウンロードする際のパッケージ料金は必要です

※注2：研究所障害工学研究部のURLは下記の通りです。

<http://www.rehab.go.jp/ri/rehabeng/renghomej.html>

【参考文献】

(1)明電ソフトウェア株式会社，高次脳機能障害者のリハビリ・生活・就労支援ソフト「メモリアシスト」，available from
<<http://talkassist.meidensoftware.co.jp/ma/index>

.html> (accessed 2010-06-25)

(2)中川良尚ら，著明な記憶障害を呈したEBウイルス脳炎症例に対する認知リハビリテーション，認知リハビリテーション，新興医学出版，2006，p. 113-119.

(3)工藤則之，メモリアシストの活用－福祉機器・福祉用具の最新事情－，ノーマライゼーション障害者の福祉，28(8)，2008，p.33.

(4)中山剛，高次脳機能障害者の職業訓練や就労の支援機器，福祉介護機器technoプラス，日本工業出版，2(11)，2009，p.7-11.

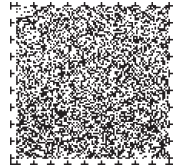


図1 支援アプリの立ち上げた際の画面例

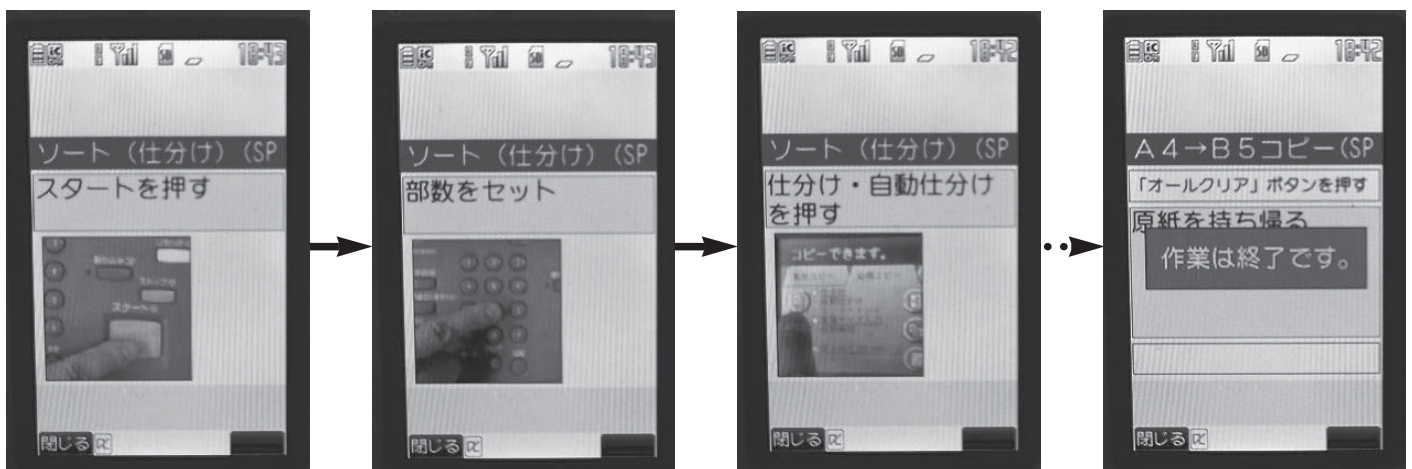


図2 手順支援機能を利用している際の携帯電話画面の例 (コピー機の操作)

